

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

⑬

高い論文被引用

フランスの科学技術という点、国主導の原動力や宇宙航空の分野での活躍を除けば、全体像や実力はよく知られていないのではないだろうか。日本の政策立案上も、米英独の実情を見れば参考となることはすでに多い。

フランスの研究者数や研究投資額は多いとはいえず、また競争的資金を増やすべきと旗を振る欧州研究圏(ERA)でも優等生とは言い難く、さらに採択率は低いため研究者は満足していない。しかしそれでいて論文の質を示す相対被引用度は

高く、米英独とトップ集団を作る。

高い研究の質をもたらし力の源泉を見つけているが、こういう点でも米国はおそらくトップクラスであろう。

例えは研究の着想は、例えば研究の着想ではフランスの力の源泉はどこにあるか。MRではフランスの公的部門11万人の約半数が注目すべきは、巨額の資金・多様性と使途

フランスの科学技術力

「混成研究」が源泉



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター 特任フェロー(海外動向ユニット) 白尾 隆行
千葉大学理学部卒。1974年科学技術庁入庁。官房審議官で退官。在外は在フランス日本国大使館一等書記官、国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム機構事務局次長(フランス・ストラスブル)、ITER国際核融合エネルギー機構(同・カダラッシュ) 機構長室長を経験。

の自由度、人事や人件費の柔軟性、チームの立ち上げ速度、研究者の混成度合い、研究者の密集度、専門的なコミュニケーションの速度などが着目に値する。UMRはアンダーミューニケーションの速度などが着目に値する。UMRはアンダーミューニケーションの速度などが着目に値する。UMRはアンダーミューニケーションの速度などが着目に値する。

広く・深く・速い

UMRに研究者やチームを送っている。UMRの組織的な見直しも内外の専門家の知識を集約して行われる。加えて多数の研究者、教員を縦横断的に集める課題、この「広く、深く、速い混成状態」に

混成研究ユニット(UMR)

